

標準委員会 第24回基盤・応用技術専門部会議事録

1. 日 時 2014年5月20日(水) 10:00~12:00
2. 場 所 5東洋海事ビル A,B会議室
3. 出席者(敬称略)
 - (出席委員) 岡本(部会長), 吉田(幹事), 石川, 伊藤, 北島, 越塚(途中入室), 塚, 坂本, 宿谷, 田中, 西谷, 西田, 沼田, 日比, 宮坂, 山口(16名)
 - (代理委員) 山本泰((株)東芝/萩原副部会長)(1名)
 - (欠席委員) 市川委員, 岩崎委員, 上野委員(3名)
 - (常時参加者) 笠原(1名)
 - (説明者) [廃止措置分科会] 初岡賢政(委員/(一社)原子力安全推進協会), 福島正(委員/(株)東芝), 工藤清一(常時参加者/MHI原子力エンジニアリング(株)), [シミュレーションの信頼性分科会], 工藤義朗(常時参加者/原子力規制庁)(4名)
 - (オブザーバ) 石倉 武((一財)エネルギー総合工学研究所), 新崎 雅志((株)原子力エンジニアリング), 湊 博一(日立GEニュークリア・エナジー(株))(3名)
 - (事務局) 谷井, 室岡(2名)
4. 配付資料
 - ATC24-0 議事次第
 - ATC24-1 前回議事録(案)
 - ATC24-2 人事について
 - ATC24-3-1 「原子力施設の廃止措置の実施:20XX」書面投票結果報告
 - ATC24-3-2 学会標準「原子力施設の廃止措置の実施」基盤・応用技術専門部会指摘事項管理表
 - ATC24-4-1 「シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン2014」標準委員会コメント投稿結果報告
 - ATC24-4-2 【中間報告】“シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン(案):201x”の概要
 - ATC24-4-3 第24回基盤・応用技術専門部会“シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン:201x”(案)のご説明資料
 - ATC24-4-4 基盤・応用技術専門部会 及び 標準委員会 コメントへの対応
 - ATC24-5-1 英文版標準案の英文チェックについて
 - ATC24-5-2 英文版標準案の価格について
 - ATC24-6 分科会の活動状況について

参考資料

- ATC24-参考1 基盤・応用技術専門部会委員名簿
- ATC24-参考2 標準委員会の活動状況

5. 議事内容

事務局から開始時点で委員20名中, 代理委員を含む16名の出席があり, 委員会成立に必要な委員数(14名以上)を満足している旨, 報告された。

(1) 前回議事録（案）の確認（ATC24-1）

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事について（ATC24-2）（ATC24-2）

事務局からATC24-2に基づき、専門部会及び分科会の人事について以下のとおり紹介を行った。

1) 専門部会

① 委員の再任【承認事項】

田中 健一（日本原子力発電）

② 常時参加者の登録解除【報告事項】

鈴木 健之（原子力規制庁）

審議の結果、田中委員の再任が承認された。なお、事務局から伊藤 英一郎委員の所属が（東京電力（株））から（福島第一廃炉推進カンパニー）へ変更されたと報告したが、後で、本件については、所属変更にあたらぬとことが判明した。

2) 分科会

① 委員の退任【報告事項】

有効高さ評価モデル分科会

舘野 徹（（独）原子力安全基盤機構）

シミュレーションの信頼性分科会

堀田 亮年（（独）原子力安全基盤機構）

工藤 義朗（（独）原子力安全基盤機構）

笠原 文雄（（独）原子力安全基盤機構）

② 常時参加者の登録【報告事項】

有効高さ評価モデル分科会

舘野 徹（原子力規制庁）

シミュレーションの信頼性分科会

堀田 亮年（原子力規制庁）

工藤 義朗（原子力規制庁）

笠原 文雄（原子力規制庁）

なお、以上の4名の常時参加者の登録における所属を、資料ATC24-1では“（独）原子力安全基盤機構”と記載していたが、“原子力規制庁”に訂正する。

(3) 【報告・審議】「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」専門部会書面投票結果(ATC24-3-1, ATC24-3-2)

事務局からATC24-3-1に基づき、“原子力施設の廃止措置の実施：20XX”の専門部会書面投票の結果、標準案は可決されたことが報告された。引き続き、廃止措置分科会の初岡委員、福島委員、工藤清-常時参加者から資料ATC24-3-1に基づき、専門部会書面投票において頂いたコメントへの対応案について説明があった。

C:指摘事項45の修正案に関して、指摘番号45で、耐熱性についても記載した方が良いのではないか、又は、などを付けるとか耐環境性とか、ぼかした言い方にして注意喚起を促した方が良いのではないか。

→ 耐熱性については、火を使う設備については、装置の仕様の中で求められるので、あえ

て耐熱性を記載しなくても良いと判断した。ぼかした言い方については、具体的に記載すべきという指摘が出る可能性もあるので具体的な表現とした。

C:作業環境に応じた耐放射線性は確実に持たせることとし、必要に応じて耐熱性、耐水性を持たせるとしてはどうか。

→ 作業環境に応じた耐放射線性を持たせる。また、必要に応じて耐熱性及び/又は耐水性を持たせると言うような記載にする。

審議の結果、専門部会書面投票において頂いたコメントへの対応における修正及び今回の専門部会で頂いたコメントを反映した内容は編集上の修正あること及び反映した内容を標準委員会で本報告することを決議した。

(4) 【報告】「シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X」標準委員会コメント投稿結果 (ATC24-4-1, ATC24-4-2, ATC24-4-3, ATC24-4-4)

事務局から ATC24-4-1 に基づき、“シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X”の標準委員会コメント投稿の結果、1票のコメントがあったことが報告された。引き続き、シミュレーションの信頼性分科会の笠原常時参加者、工藤義朗常時参加者から、ATC24-4-2, ATC24-4-3, ATC24-4-4 に基づき、これまで頂いているコメントへの対応案について報告があった。主な質疑・コメント等は下記のとおり。

C:信頼性についての用語に関しては、このガイドの主題でもあり、用語及び定義の注記で補足するよりも、解説に説明として記載するのがよい。

→ 拝承。

C:本体の不確かさを考慮した予測解析の項にて記載の感度解析について、附属書で説明すること。

→ 拝承。

Q:妥当性確認実験のV&Vを含め実験自体の妥当性について何を要求するのか？

→ 妥当性確認実験については、シミュレーションにかかわる数学的モデル化と同様に、実験の不確かさを定量化して検証することになる。また、実験計画及び実験条件の評価時にシミュレーションを使用したり、code scalingのようにシミュレーションを介したスケールリング特性を評価したりするなど、その検証及び妥当性確認の一助としてシミュレーションも活用できる。なお、過去の実験については、既往実験データベースの調査に基づいて、実験の不確かさが適切に定量化されていることの確認が必要となる。

(5) 【報告】英文版標準案の英文チェックについて (ATC24-5-1, ATC24-5-2)

事務局から ATC24-5-1 及び 24-5-2 に基づき、原子力学会標準「γ線ビルドアップ係数」の英語版の事務局によるチェック及び販売価格案について報告があった。

(7) 基盤・応用技術専門部会 分科会活動状況 (ATC24-6)

事務局からATC24-6に基づいて各分科会の活動状況が報告された。

6. その他

・次回第25回基盤・応用技術専門部会は、8月28日（木）午前中とした。

以上